飛騨農林事務所の普及活動状況（令和７年２月末現在）

今月の重点活動

■夏秋トマト　経営力向上研修報告会を開催

【報告会の様子】

岐阜県では、農業者の経営力強化を目的に「儲ける農業者育成支援事業」を推進しており、今年度はトマト農家２戸を対象に農業経営コンサルタントによる個別の経営力向上研修を実施した。

２月20日、飛騨総合庁舎で、対象農家、コンサルタント、JA担当者など関係者を参集し、今年度の研修の経過や成果の報告会を開催した。

報告会では、コンサルタントの宮地順子氏から対象農家に実施した経営状況調査、その結果をもとにした研修カリキュラムの立案、さらに解決策の実施状況について報告があった。また、研修を受講した農業者からは、「経営分析の重要性は認識していたが、そのきっかけとなった」と好評の声が聞かれた。

農業普及課では、今後、今回の研修成果を優良事例とし、栽培技術だけでなく、経営改善のための助言・支援に活用していく。

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■果樹　令和７年版　果樹防除暦説明会開催される

【説明会の様子】

久々野町果実出荷組合は、２月４日に果樹防除暦説明会を開催し、組合員18名の他、農業普及課、JAひだ、全農岐阜、肥料メーカーが出席した。

令和６年産はリンゴの褐斑病と輪紋病が多発したことから、来年度の防除暦はこれらの病気対策に重点を置いた変更を行い、当日は農業普及課からそれらを中心に説明した。また、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用し、久々野町で実施している実証試験の結果を報告した。生産者からは、輪紋病の耕種的防除方法について質問がされた他、継続した実証により重点防除時期を特定してほしいとの意見が出され、病害虫の感染及び発生の実態を明らかにすることに期待が寄せられた。

農業普及課では、来年度も本実証により、病害虫の発生調査や予測を行うとともに、それに基づいた栽培技術情報の提供や病害虫防除暦の作成等を実施することで、管内果樹生産者を支援していく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■宿儺かぼちゃ　栽培研修会（飛騨全域）を開催

【栽培研修会の様子】

２月28日、JAひだ丹生川支店で、飛騨地域の農業者を対象とした宿儺かぼちゃの栽培研修会が開催され、宿儺かぼちゃ研究会の会員を含めた約100名が参加した。

研究会は、現在123名の会員で構成され、生産者同士の切磋琢磨により、高品質な宿儺かぼちゃが栽培されているが、会員数は減少傾向にあり実需者からの要望量を満たせていない。そこで、新たな会員を募るため、研究会に所属していない農業者が参加した栽培研修会を実施した。

研修会では、研究会の紹介と会員募集の案内があった。また、令和６年度から導入した新たな混植用かぼちゃ(栗のめぐみ１号(商品名：宿儺のめぐみ))を中心とし、栽培方法について研修を行い、農業普及課は講師として、圃場の管理や病害虫対策について講義を行った。

農業普及課では、今後、新規栽培者を重点的に、栽培管理や防除方法の支援していく。

■水稲　「飛騨の酒米ひだほまれ品質コンクール」開催される

２月19日、第３回「ひだほまれ品質コンクール」が開催された。「ひだほまれ」は飛騨地域で124名が栽培する酒造好適米で、醸造されたお酒は甘・辛・酸・渋・苦の五味のバランスが良く旨味があるのが特徴である。

令和６年は前年に続き高温だったが、生産者のきめ細やかな管理により、収量、品質とも良好であった。当日は生産、流通、酒造の代表者が審査員を務め、事前に20点から選出された６点の玄米について審査が行われた。どれも充実が良好で、整粒率の高い甲乙つけがたい出来栄えであった。

【審査の様子と「ひだほまれ」】

審査の結果、高原酒米組合の㈱まんま農場が金賞一席に選ばれた。

昨年12月には「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことから、当コンクールが「ひだほまれ」の品質向上と酒ブランドの向上につながることが期待される。

農業普及課では、今後もJA等と連携し、高温対策等の栽培支援を行い、実需者の要望に沿った酒米づくりを目指すとともに、「ひだほまれ」のブランド化を支援していく。